兵庫県立丹波医療センター

内科

指導担当医（役職）

河崎 悟（副院長）、見坂 恒明（地域医療教育センター長）

実習概要

実習コース

2週間コース・4週間コースどちらも可

概要

県立丹波医療センターの内科については、内科は一つ、アメリカ型GIMの体制で運営しているため、内科全体としての実習になります。ステューデントドクターとして、上級医・専攻医・初期研修医からなる主治医チームの一員として診療して頂きます。事前に希望する細分化した内科の希望があれば確認し、実習期間中に実習する機会を設けます。（総合内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍・血液内科、脳神経内科）

（総合内科）

救急初期対応、初診外来の診療などでのファーストタッチや身体診察の教育回診や1例を深く追求する臨床推論の勉強会を通じて、医療面接・身体診察からなる臨床推論の実践力を鍛えます。県立丹波医療センターだけではなく敷地内に隣接するミルネ診療所において、初期研修医で必須研修要件となっているプライマリ・ケア外来も経験できます。また、病棟患者の受け持ちを通じて、カルテ記載の基礎やプレゼンテーションの基本を身に付けて頂きます。訪問診療の同行などを通じて、診療の場によらない幅広い臨床の場を体験して頂きます。

（循環器内科）

診療チームの一員として、実際の入院患者の診療に参加していただきます。患者さんを複数名担当し、症例のプレゼンテーションとそれに引き続くディスカッションの相互反復により、循環器疾患及び内科疾患の理解を深めていただきます。また、心電図、胸部レントゲン読影、心エコー図検査の実施・解釈を学んで頂きます。

(消化器内科)

主治医団の一員として加わっていただき、総合的な消化器内科研修を受けることができます。消化器内科として細分化していませんので、消化管疾患、肝胆膵疾患、消化器救急、内視鏡診断、治験の実際、癌化学療法などフラットな研修ができます。

(腫瘍・血液内科)

腫瘍・血液内科の常勤医は現在1名のみであるため、指導担当医と共に行動して診察や医療面接を行います。地域に根ざした医療を行いつつ、最新の治療も取り入れており、最先端のがん薬物療法も学ぶことができます。

(脳神経内科)

脳神経内科の主治医団の一員として診療に参加します。具体的には毎朝夕の主治医の回診に加えて、神経伝導検査・筋電図の検査、救急外来からの神経救急疾患に対するオンコール対応などにも指導医や専攻医の医師とともに参加し、市中病院での脳神経内科診療を学びます。

実習スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	訪問診療	病棟診療	医療センター 初診外来	研修医からの レクチャー	病棟診療
午後	病棟診療	身体診察回診	病棟診療	救急外来	身体診察回診

- ・実習初期に感染対策、カルテの書き方、プレゼンの仕方のレクチャーを行います。
- ・レクチャー・手技等は適宜あります。
- ・希望診療科により適宜スケジュールはアレンジします。

学生へのメッセージ

丹波医療センターは教育に重点を置き、その実績も十分ある病院です。病歴聴取、身体診察からプロブレムリストを列挙すること、鑑別診断を考え検査計画を立案すること、基本的な検査結果の解釈、専門職としての態度・行動・倫理感、コミュニケーション技能、自己楽学習など 学生のうちに習熟しておくべき内容が、型に沿って、しっかり身に着きます。

(総合内科)

病院総合医にも、地域に根差した家庭医療医にも対応しています。

(循環器内科)

大学病院での実習で出会う患者さんとは異なり、当院で担当する患者さんは初診時や入院時にすでに病名や治療方針が決定されている方々ばかりではありません。初診時の病歴や身体所見から臨床推論を働かせつつ必要最小限の検査を追加することによって病態や血行動態に深く迫る。そんなエキサイティングな臨床トレーニングをしてみませんか？ common diseaseの反復トレーニングによってのみ臨床力が鍛えられます。我々と一緒に循環器臨床を学びましょう！

(消化器内科)

内科同士、外科と連携もとれており、様々な問題に対応しながら専門的な診療を行う消化器臨床を経験できます。

(腫瘍・血液内科)

高齢者が多い地域であり、疾患とどのように付き合っていくかということが非常に重要になってきます。そのような状況の中で、当院には緩和ケア病棟もあるため診察から治療・緩和ケアまで一貫して学ぶことができます。また、急性骨髄性白血病などの緊急を要する症例の対応も多くなってきておりますので、血液疾患を中心に様々な症例を経験することができると思います。興味のある方は是非検討してみてください。

(脳神経内科)

脳卒中やてんかん、髄膜炎、認知症など脳神経内科領域のcommon diseaseをひろく経験できます。脳神経内科を目指す方には是非当科での実習に参加してもらいたいです。